

進路と学習を考える

前高ジャーナル



発行 群馬県立前橋高等学校
(編集 進路指導部)
〒371-0011 群馬県前橋市下沖町 321-1
TEL: 027-232-1155 FAX: 027-233-1046
Email: maebashi-hs@edu-g.gsn.ed.jp

2022年度大学入試を振り返って

◆2022入試トピック◆

- 大学入学共通テスト2年目 平均点大幅ダウン
- 新型コロナウイルス感染症の影響

1. 大学入学共通テスト

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が依然として懸念される中、令和4年1月15日(土)・16日(日)の日程で大学共通テストが行われた。

志願者数は4年連続減少となった。昨年度以上に「現役中心の入試」という傾向が強まる一方、大学に在籍する学生の再受験の増加が推測されている。

前高生は近年前橋高校を会場としていたが、今年は群馬医療福祉大学を会場として273名が受験した。ベネッセ・駿台の予想では、5教科900点満点の平均点で文理系ともにダウンした。全国平均で文系は44点、理系は59点の大幅ダウンとなった(【表1】)。共通テストの2年目であり平均点の

ダウンは心配されていたが予想以上のダウンであった。前高生の5教科平均点もダウンした。理系は全国の動向に準じたが、文系は全国の動向よりも大幅なダウンに見える。数学ⅠA・ⅡBで苦戦を強いられた上に、国語・日本史の難化に苦しんだかもしれない。得点率の分布も平均点ダウンに従うものとなった。前高でも900点満点で80%以上の得点率となった者は例年に比べて少なかった。

【表1】5教科(900点満点)平均点

年度	全国*		前高	
	文系	理系	文系	理系
2018	554	564	648.1	646.9
2019	570	576	671.0	675.6
2020	548	559	665.4	638.4
2021	552	572	670.5	670.3
2022	508	513	612.9	613.1

*全国平均はベネッセ・駿台による推測値

【表2】主要科目の平均点<全国>

年度	2021	2022	差
国語	117.5	110.3	-7.2
世界史B	63.5	65.8	2.3
日本史B	64.3	52.8	-11.5
地理B	60.1	59.0	-1.1
数学ⅠA	57.7	38.0	-19.7
数学ⅡB	59.9	43.1	-16.8
物理	62.4	60.7	-1.7
化学	57.6	47.6	-10.0
生物	72.6	48.8	-23.8
英語(リーディング)	58.8	61.8	3.0
英語(リスニング)	56.2	59.5	3.3

大学入試センター発表資料による

2. 国立大学二次試験

全国の国立大学の志願者は3年ぶりに増加した(【表3】)。国立大学の確定志願者数は11年ぶりに増加に転じた。共通テストの大幅難化はあったものの、個別(2次)試験の比重が高くなるという判断により国立大受験を挑戦する傾向となったようだ。難関国立10大学全体の志願者数は前年度に比べて微増であった。

【表3】国立大学志願状況(独自日程は除く)<全国>

設置	2021年度			2022年度			志願者前年比
	募集人員	志願者数	倍率	募集人員	志願者数	倍率	
国立	76,917	295,931	3.9	76,599	302,953	4.0	7.022
公立	22,049	129,437	5.9	22,024	125,670	5.7	-3.767
計	98,966	425,368	4.3	98,623	428,623	4.4	3.255

駿台資料による

前高生の国立大学・合格状況と難関国立10大学合格状況についてまとめた(【表4・5】)。現役国立大合格者数は183名

であった。これは過去10年間で最多である。7クラスになって2年目の学年であることを考慮すると一層目を見張る好成績である。難関国立10大学においても例年にまして多数の合格を勝ち取った。医学科現役合格者18名も高水準であった。

既卒生も東大1名合格、国立大医学部医学科5名合格など健闘した。

【表4】国立大学合格状況<前高>

設置	現浪	2018	2019	2020	2021	2022
国立	現	115	154	148	143	165
	浪	52	62	58	33	32
公立	現	9	11	22	13	18
	浪	5	7	8	3	4
計	現	124	165	170	156	183
	浪	57	69	66	36	36

令和4年4月作成「進路概況」による

【表5】難関国立10大学合格状況

(数字は現役+既卒生(現役)。-は出願なし。)

大学	2018	2019	2020	2021	2022
北海道大	4(1)	4(2)	7(6)	6(5)	9(4)
東北大	11(9)	24(18)	22(18)	16(15)	23(22)
東京大	14(9)	7(6)	5(1)	7(4)	11(10)
東京工業大	3(0)	1(1)	1(1)	2(2)	3(3)
一橋大	5(2)	2(2)	2(1)	1(1)	1(1)
名古屋大	1(0)	2(1)	2(1)	2(1)	3(2)
京大	5(2)	13(10)	5(5)	7(6)	8(5)
大阪大	2(2)	2(1)	6(5)	2(2)	2(2)
神戸大	1(1)	1(1)	-	-	1(1)
九州大	-	-	-	1(1)	-
計	46(26)	56(42)	50(38)	44(37)	61(50)

令和4年4月作成「進路概況」による

3. 私立大学一般入試

私立大学の一般選抜入試(推薦・AO入試等の特別選抜入試を除く)の延べ志願者数は332.8万人と推定され、昨年より微増に留まった。昨年度入試はコロナ禍の影響で14.5%減少という大きな減少だったが、併願校絞り込み、長距離移動の敬遠という志望動向は継続したようだ。更には、共通テストの難化があり、共通テスト利用方式の事後出願も控えられたと考えられる。

前高生の卒業生数に対する私立大学出願数は約4.3だった。これは大学入試改革が強く意識される前の2019年度入試以前の水準である。

今年4月作成の「進路概況」の一部を前高Webページに掲載しています。また、6月発行予定の『進学の手引』資料編に全データを掲載します。

逆境の中でも 走り続けた生徒たち

令和3年度第3学年主任 **田村 晶**

3年間を振り返ると、今年の卒業学年の前高生活は新しいことでいっぱいでした。55分授業、SSH、1年次末から3ヶ月の休校、その後の分散登校、マスク生活、Chromebookの貸与、オンライン授業、定期戦の分散開催、日帰り修学旅行、蛟龍祭オンライン開催、外部会場での共通テスト受験などです。しかし、今まで経験のないこれらのことに柔軟に対応し、前向きに自分たちができることを考え、着実に実行していったのがこの学年の生徒たちでした。



2021年1月
SSH 成果発表会



2021年9月
分散登校(オンライン授業)

3年次において、まず部活動では各部ともに万全の感染予防対策を講じて、県内・関東・全国大会、コンクール等に参加しました。各部とも、約2年間もの長い間、多くの制限がかかる中で、大変な思いをしながら練習・準備に励み、大会等では大きな活躍してくれました。特に、全国大会で県勢初の全国優勝を成し遂げた囲碁部、また僅差で惜しくも栄冠を逃したものの全国大会準優勝の山岳部の活躍が印象的でした。

また、学校行事では、蛟龍祭・優曇華・定期戦の三大行事を制限のある中で何とか実施しました。気づけば、コロナ禍の前の通常開催だった頃の三大行事を知っているのは3年生のみとなっていました。蛟龍祭は春の感染拡大の中、校内開催並びに後日のオンライン公開。優

曇華は二回連続の中止は回避でき、観客は前高生と関係者のみながらもベイシア文化ホールで開催。そして例年より約1ヶ月遅い10



2021年10月
第74回定期戦

月に開催した定期戦は前高と高高での分散開催でした。彼らはリーダーとしての責任を十分に果たし、伝統を継承してくれました。そして、定期戦を終えてからは学習面での素晴らしい集中力を発揮しました。これも、共に喜びと苦しみを味わってきた仲間とともに最後まで頑張ろうという気持のあらわれでしょう。まさに「受験は団体戦」と「最後まで前高に軸足を置く」ということばの通りでした。



2022年1月 共通テスト
(群馬医療福祉大学)

前高生の成功パターンは、①学習と部活動のどちらも全力で取り組み両立を目指し、②両立のために朝型の生活習慣を確立して忙しい中でも学習時間を確保すること。そして、③部活動や学校行事等で仲間と努力して得た達成感を受験勉強に活かして、最後まで共に頑張りぬくこと、とまとめることができると思います。そういう意味で、今年の卒業生は、実直で努力家の生徒が多く、教員を始めまわりからのアドバイスを素直に聞く姿勢が印象的でした。コロナ禍という逆境をネガティブにとらえるのではなく、逆に飛躍のチャンスととらえて努力し、それぞれの進路へ飛び立っていきました。

急速に変化する社会構造に対応できる人材の育成のために、大学入試も大きく変わろうとしています。この変化にも前高のもつ『伝統』から作られてきた体制は、十分に対応できるはずです。今後なお一層の、卒業生・在校生の皆さんの健闘を期待しています。

最後に、素晴らしい生徒と先生方に恵まれ、充実した3年間を送ることができました。この場を借りてお礼申し上げます。どうもありがとうございました。